

令和5年度

分掌・学年・教科の  
成果と課題



秋田県立六郷高等学校

## 目次

### ○各分掌

1	総務部	・・・・・・・・	P. 1
2	生徒指導部	・・・・・・・・	P. 2
3	教務部	・・・・・・・・	P. 3
4	特別活動部	・・・・・・・・	P. 4
5	進路指導部	・・・・・・・・	P. 5
6	保健安全部	・・・・・・・・	P. 6
7	研修部	・・・・・・・・	P. 7
8	図書視聴覚情報部	・・・・・・・・	P. 8

### ○各学年

1	1年	部	・・・・・・・・	P. 9
2	2年	部	・・・・・・・・	P. 10
3	3年	部	・・・・・・・・	P. 11

### ○各教科

1	国語科	・・・・・・・・	P. 12
2	地歴公民科	・・・・・・・・	P. 13
3	数学科	・・・・・・・・	P. 14
4	理科	・・・・・・・・	P. 15
5	保健体育科	・・・・・・・・	P. 16
6	芸術科	・・・・・・・・	P. 17
7	英語科	・・・・・・・・	P. 18
8	家庭科	・・・・・・・・	P. 19
9	情報科	・・・・・・・・	P. 20
10	商業科	・・・・・・・・	P. 21
11	福祉科	・・・・・・・・	P. 22



令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 生徒指導 部

## 1 本年度の重点目標

- |   |
|---|
| (1) 基本的な生活習慣の確立<br>(2) 事故及び問題行動の未然防止<br>(3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成 |
|---|

## 2 目標達成のための具体的方策

- |   |
|---|
| (1) 基本的な生活習慣の確立<br>① 挨拶の励行<br>② 端正な整容の維持<br>③ 遅刻防止<br>(2) 事故及び問題行動の未然防止<br>① 校内外における問題傾向生徒の早期発見・早期指導<br>② 保護者及び地域諸機関との連絡強化<br>③ 問題を抱える生徒の個別指導の徹底<br>(3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成<br>① マナー向上とルールを守らせる指導<br>② 職員の共通理解による指導の徹底<br>③ 研修の充実 |
|---|

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の登校指導や昼休みの校内巡視がなされ、基本的な生活習慣の確立に向けて適切に指導することができた。</li> <li>整容指導では、統一的な指導ができるように見直しが図られた。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>ここからチェックなどを活用し、問題行動に関する早期発見に努めた。</li> <li>いじめ事案に対して、生徒支援委員会や学年部で情報を共有し、速やかに対応することができた。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有や問題行動後の生徒の事後指導など学年部と連携をとりながら進めることができた。</li> <li>タブレットの扱いについて、学年部や他分掌とのルール作りの必要性を感じた。</li> </ul>	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の反省に基づき、今年度は情報モラルやいじめに関する講習会等を早い時期に設定することができたが、より生徒の心に響く内容のものにしていきたい。</li> </ul> |
|--|

## 5 その他、要望等

R 6 大仙仙北地区高等学校生徒指導連絡協議会事務局 2 年目
---------------------------------

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名                      教務部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 生徒の実態に即した観点別評価の設定と運用を各教科に促し、必要があれば規程を見直す。
- (2) 業務の最適化、効率化を図り、適正な事務作業の運営を行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) これまで行ってきた観点別評価から新しい観点別評価へスムーズに移行できるように、現在行っている評価の仕方が、本校生徒の特性を踏まえたものになっているかを検討し、必要があれば規程の見直しを行う。
- (2) これまでの経験を活かして業務に力を発揮してもらえるように、分掌内で役割を分担しつつ、必要に応じて全員の総力を動員できるよう普段の連絡に努めたり、環境を整えたりする。また、新成績システムが正しく作動しているかを注意深く見ながら作業に当たる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) P D C Aサイクルに基づいた授業の実践と評価の仕方の改善を行っている最中である。また、来年度に向けて成績評価の内規を見直しを行っていきたい。	B
(2) 分掌内での各業務は適切に行われてきた。新成績システムを使っていくに当たってシステムに沿った業務のやり方が見えてきた。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・本校生に適した評価がなされる評価の在り方の検討を続けていく。
- ・新成績システムの出欠は日々入力にし、成績処理ミスが出ないように注意喚起する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 特別活動 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 生徒会執行部を中心に学校行事の主体的な運営を支援する。  
 (2) 部活動の加入を促進し、活動環境を整え、活性化を図る。  
 (3) 各委員会の自主的な活動を積極的に行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①生徒会執行部を中心に朝の挨拶運動や校内での挨拶を励行する。  
 ②生徒会執行部の発行する「SCHOOL NOW」を通じて、日常生活や学校行事などを各自が振り返る機会とする。  
 ③校外で行われる交流事業・各種会合への積極的な参加を促す。  
 (2) ①1年生への部活動紹介や体験入部など、既存の活動をより精度を高めて実践し、加入促進に繋げる。  
 (3) ①文化的行事・体育的行事とも各委員会を中心に計画・実践し、生徒が活動を通して達成感を味わえるよう配慮する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
生徒会執行部による挨拶運動は、春先は積極的に挨拶運動に参加してもらったが、後半はおろそかになった部分があった。また「SCHOOL NOW」は、予定通り学校行事が行われ、思い通り発行することができた。CSにおいて地域の方々と交流することが出来た。また、全県総体のリモート開会式に生徒会執行部が参加した。	B
残念ながら昨年より入学者が少なく、かつ、部活動加入率は65%と低く、特に男子生徒の加入率が低い。そのため目標達成はならなかった。しかしながら、野球部が単独チームとなり、六郷高校の名を復活させてくれた。	B
今年の学校祭は一般公開での開催だったが、壁画やステージ発表、クラスデコなど各クラスの持ち味が発揮できた内容で、過去10年で最も入場者数が多く、盛り上がることができた。クラスマッチは、新たな種目など生徒の現状を踏まえた運営の工夫を行い、実施することが出来た。また、運動会も前半体育館、後半グラウンドと計画が大変だったが、大いに盛り上がって終わることが出来た。また、各行事とも生徒会を中心に、委員会や部活動の部員達が計画・実践し、行事の運営に協力してもらえてとても助かった。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

各部活動の活動紹介の動画を入学後から玄関で流すなど、入部加入率を上げるように工夫したい。学校祭では一般公開を1日出来るように公開内容を工夫していきたい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 進路指導部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 学ぶこと・働くことの意義の理解と、正しい職業観・人生観の育成に努める。  
 (2) 生徒の多様な進路希望を実現させる体制を作り、適切な資料や情報を提供する。  
 (3) 保護者や地域とも連携し、個々に対応したきめ細かな進路指導を行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①進路ガイダンス、進路講話、合格体験発表等の実施。  
 ②職場見学、インターンシップ、社会人講話、キャリアパスポート等の実施。  
 (2) ①面接、調査等による個々の進路希望の把握。  
 ②進路情報(就職・進学)の早期提示と「進路の手引き」の活用。  
 ③面接指導、模擬試験、補習、添削等の計画的実施。  
 (3) ①三者面談、地域の人材等の活用。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準(秋田県教育委員会)

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
・各学年の発達段階に合わせた進路ガイダンス、職場見学、インターンシップ、卒業生講話、合格体験発表会等の各取組を企画できた。	A
・希望調査や面接で進路希望を把握し、全職員の協力で面接指導等を行い、昨年度より早期に進路を決められた。 ・「進路の手引き」が3年生の進路指導に活用された。 ・第1志望の受験先に不合格となった生徒が今年度も数人いた。	B
・各学年とも三者面談等で家庭と綿密に連携をとりながら進路指導を行った。 ・3年生は受験先を決める時期に三者面談を計画して行った。 ・地域の企業の方々から模擬面接指導や進路行事等で協力を得られた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・面接練習を早期にスタートさせるように指導したい。  
 ・専門学校や大学からの指定校推薦の案内が来たらすみやかに公表する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健安全 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 保健関係機関や家庭との連携を図り、生徒の健康の保持・増進に努める。  
 (2) 基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成を目指す。  
 (3) 心の健康教育と教育相談の充実に努める。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 健康診断の結果を速やかに通知し、検査・治療が必要な生徒には多方面から継続的に指導を行う。  
 (2) 保健だよりや生徒保健委員会活動、保健講話等を通じて、健康管理の大切さに気づかせ、実践できるようにする。  
 (3) Google formsを用いた「ここ×からチェック」を2か月に1回程度実施し、生徒の自己理解を促すとともに、教育相談やカウンセリングに繋げ、心身の健康問題の早期発見・早期対応に努める。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 各健康診断後、受診結果を速やかに通知することや、長期休業前の保健便りの発行等を通して受診を勧めたが、視力検査の受診率は5.5%と低い。受診勧奨の方法が課題である。	B
(2) ・保健関係講話の実施時期を見直し、学年ごとに内容を変更して実施した。従来より少人数でタイムリーな内容を実施でき、有意義な講話になったと思われる。 ・クラスマッチや運動会の際、保健安全委員会で怪我予防・感染予防の呼びかけや感染対策として手指消毒の励行、共用の物品の消毒などを実施した。全校生徒の協力もあり、大きな怪我や感染拡大なく大会を終えることができた。	A
(3) 学年部の協力を得て、「ここ×からチェック」を2か月に1回程度実施できた。生徒の様子に異変を感じた際に「ここ×からチェック」を実施するなど、効果的に活用していた学年もあった。アンケート項目の検討や、相談先の組織の選択肢を増やすこと等が今後の課題である。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

「SOSの出し方講座」や「がん教育」など命の大切さについて考える講話の導入を検討し、3年間で系統的な「命の教育」の実施を目指したい。

## 5 その他、要望等

授業中の可能な限りの常時換気の励行と、加湿空気清浄機の使用をお願いしたい。



令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 図書視聴覚情報 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 図書館利用を促進し、生徒の読書力向上を目指す。  
 (2) ホームページの充実を図る。  
 (3) 各教科との連携を図り、授業時の図書館活用を促進する。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 図書館からの情報発信を必要に応じて行い、図書館利用を呼びかける。  
 (2) 学校行事や学年、部活動等の活動に対し、寄稿を呼びかける。  
 (3) ICT機器の活用や調べ学習の場としての図書館活用を各教科に呼びかける。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 図書委員会により図書の貸借等、図書館運営はされ、新書購入の都度にしつかりと情報発信ができたが、利用者数は例年と比べ変動がなかった。	B
(2) HPは、協力依頼が遅くなりタイムリーな更新ができなかったが、各学年、分掌の先生方の協力で各ページの更新ができ、地域に情報発信することができた。	B
(3) 授業における図書館の活用については、資料の貸出や映像の提示等で利用されたものの、Wi-Fi環境が脆弱なためか限定的であった。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 選書についてはアンケートにGoogleフォーム等を利用し、気軽に答えることができるように工夫し、生徒が興味を引くような本を購入する。  
 (2) ホームページの更新については、各学年や各分掌の先生方に依頼する。古いページについても引き続き早めの更新をお願いする。  
 クラウドサーバー内はデータの容量の制限があるため細かい整理を呼びかける。  
 (3) 授業に活用できる図書や映像資料等を購入し、配架する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 1年 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な生活習慣を確立させる。  
 (2) 進路意識を高め、主体的に学習に取り組む態度を養う。  
 (3) 他者を思いやり、自己成長を促しながら人間関係を構築させる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 進路手帳（スコラ手帳）を使い、「書く」「時間を意識する」「考える」を習慣化する。様々な場面で「書く」場面を設定し、きちんと「書く」「読む」「話す」力を育成する。  
 (2) 学科・コースガイダンスの実施や、LHR及び総合的な探究の時間を活用し、進路意識を醸成させ、自らの進路を主体的に考えていく心を育成する。  
 (3) 挨拶や言葉遣いなど徹底させ、互いを思いやり理解・尊重し、人間性や関係性を育成する。  
 (4) 部活動や地域の人々との交流活動を通して、社会性を築く力を育成する。  
 (5) 面談やカウンセリング、健康管理指導等によって心身両面で健康な生徒を育成する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

取組と成果	評価
(1) SHR、LHR、講話やガイダンス等にスコラ手帳やバインダーを持参させ、「書く」ことを意識させた。記載している内容をもっと中身のあるものにさせることができればよかった。	B
(2) LHR及び総合的な探究の時間を有意義に活用し、学科・コースガイダンスを数回実施することができ、コース選択に活かされた。	B
(3) 挨拶や言葉遣いなど徹底させることができた。整容面での指導を充実させていきたい。	B
(4) 部活動加入率が5割であり、少し少ないと感じる。農業体験や職場見学では積極的に交流を図ることができ、社会性を築く力の育成ができた。	B
(5) 学年全体で生徒の状況を共有し、問題や不安を抱えた生徒には個人面談を行うことによって支援をした。生徒が落ち着かない時に、適宜学年集会を行い、問題の未然防止を図ったことにより、学年全体として落ち着いている。学年だけでなく、学校全体で状況の共有ができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・朝学習、朝読書の時間を充実させる手立てを考える。  
 ・2年生の修学旅行期間中の行事を精選し、集中的な実施ではなく、適切な時期に実施する。

## 5 その他、要望等

- ・介護ロボット体験を福祉科選考試験前に実施する。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 2年部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 進路実現に向けて、学習はもちろんのこと自らの進路への意識付けをさせる。  
 (2) 整容や基本的な生活習慣を徹底させ、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。  
 (3) よりよい人間関係を構築する力を高めさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 進路実現に向けて、学習はもちろんのこと自らの進路への意識付けをさせる。  
 ①正しく「書く・聞く・伝える」、時間を「守る」、自分で「考える力」を習慣化させ、自らの進路を主体的に考えていく力をつけさせる。  
 ②学習の大切さを認識させ、成績向上に結びつける。  
 (2) 整容や基本的な生活習慣を徹底させ、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。  
 ①基本的な生活習慣を徹底させ、正しい言葉遣いや挨拶ができるように声かけをしながら、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。  
 (3) よりよい人間関係を構築する力を高めさせる。  
 ①互いを思いやり、理解・尊重し合える人間性や関係性を育てる。  
 ②面談やカウンセリング、健康管理指導等によって、心身両面で健康な生徒を育てる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
個々の進路目標に向け、進路ガイダンスを2回実施したり、インターンシップの事前・事後学習を通して、進路に対する意識を高めることができた。インターンシップの報告会は体験した事業所以外に関心を持つことができ、有意義であった。進路指導部の体制がよく、連携しながらできたことがよかったと思う。	B
挨拶やマナーの向上は徐々にできてきているが、基本的なルールが守れず自己判断で行動する生徒に対しての指導が徹底されなかった。	C
学年集会や面談を通して生徒との連携を図るようにしたので、担任と生徒、保護者との関係作りはよかったと思う。不安をかかえた生徒にはカウンセリングを勧めたり、個人面談を強化したりして、できる限りの支援を行った。幼い考えや行動をする生徒には、相手を思いやる言葉遣いや態度を身に付けさせることが必要であった。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・確実に基本的な生活習慣を確立させる。(遅刻・ベル着・挨拶・服装等)  
 ・生徒を常に観察をして理解しながら、希望する進路への実現を目指す。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 5 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 3 年 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 進路目標達成に向けて、主体的に取り組む能力と態度を育てる。  
 (2) 地域社会や職場で求められる社会人、成人としての基礎力を養う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 自身の進路目標達成のために、どのような準備が必要であるか個人面談や学年集会、各授業を通して考えさせる場面を設け、自ら考え行動する力を育む。  
 (2) 日頃から丁寧な言葉づかいを意識することで、場に応じたマナーや礼儀を身に付けさせる。また総合的な探究の時間や実習、体験活動の充実を図り、社会人としての基礎力を身につけさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 個々の進路希望を学年部全員で共有し、適切な進路指導に努めた。 また、社会人としてのマナーを常に意識させるような指導を徹底した。	B
(2) 総合的な探究の時間を通して地域や職業への理解を深め、租税教室や選挙啓発前講座等の各種体験活動を通して社会人基礎力を身につけさせるよう努めた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 進路決定に向けて、生徒・保護者との連携を図るために、生徒の進路希望に合わせた適切な時期での三者面談を計画・実施する。  
 (2) 通常の授業を発展させた総合的な探究の時間の学習の充実を図る。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 5 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 国 語 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎学力の定着を図る。  
 (2) 文章を的確に理解し、自分の言葉で適切に表現できる能力を身に付けさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 教科書や教員が作成したプリントを活用して反復学習を実践する。  
 (2) 「電子黒板」や生徒個人の「タブレット端末」等、ICT機器を効果的に活用する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 考査前に時間を設け、単元の学習内容についての総復習を教科書や教員が作成したプリントを活用しながら行わせることができた。 教科書に出てくる漢字を取り上げて何度も練習させたり、教員が作成した課題に取り組みせたりするなどして漢字の知識の向上を目指した。	B
(2) 電子黒板を利用して視聴覚教材を提示することで、学習内容の理解を深めさせることができた。 タブレット端末については、課題を作成して考えを共有させるなどして効果的に活用することができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 学習の意義についても理解させながら基礎学力を定着させるとともに、漢字や語彙力、読解力を身に付けることに粘り強く取り組ませる。  
 (2) タブレット端末、またそのアプリケーションの授業への活用法について、継続して研究する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 地歴公民科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 資料を活用し、課題を解決できる力を身に付けさせる。  
 (2) 授業を通して、社会人としての基礎学力・教養を身に付けさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 地図や統計、画像などの諸資料を收拾し、有用な情報を選択して読み取りやまとめができるようにする。  
 (2) 授業で利用するプリントや課題をしっかりとめさせ、基本的な事柄や知識を身に付けさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
・さまざまな資料から読み取らせ、自分の言葉で発表や表現できる力の育成に努めた。読み取るための考え方や見方は少しずつできるようになってきているが、それを表現していく力の育成まではもう少し継続した指導が必要である。	B
・プリントや課題の提出、板書内容をノートにまとめさせたり、書くことによって基礎基本の定着をさせることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・次年度から「地理総合」となり、「公共」「歴史総合」と新カリキュラムへの移行が完結する。学習評価の改善や指導計画がスムーズに実践に移行できるように準備を進める。  
 ・考えて自分の言葉で表現できる力の育成に向けた授業改善。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 数 学 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎基本の定着を図るため、ICTを効果的に活用し、数学に対する苦手意識をなくし、学力向上ならびに定着を目指す。
- (2) 生徒一人一人に寄り添った指導をするため、個々に対応した指導内容や指導方法を考え、常に授業改善に務める。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 中学校までだけでなく、小学校段階までの学び直しを充実させるため、授業の中で既習事項であっても学びなおしの時間を確保する。学力の定着を図る一つの方策として、ICTを効果的に活用するための授業改善をする。
- (2) TTの授業を有効に活用し、困っている生徒がいればできるだけ速く対応しながら授業を進める。観点別評価について、適正な評価が行えるように生徒の実態に即したものに改善する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 電子黒板やタブレットを活用して基礎基本の定着を図るための授業実践を行っている。今後は、出来る生徒への応用問題などをICTを活用して導入する方策を模索したい。	B
(2) 在籍数が少ないこともあり、一人一人にきめ細かな指導をすることができた。観点別評価については、定期考査へ向かう姿勢をより一層高めるための工夫をしていく必要があると感じる。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・これまでの基礎基本の定着を図ることに加え、出来る生徒へのより発展的、応用的な問題へ取り組ませる方策を検討する。
- ・観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方を検討し、より適切に評価が行われるようにする。

## 5 その他、要望等

予算もあるかと思うが、スタディサプリの採用を検討する。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 理 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な学力を定着させる。  
 (2) 自然科学に興味をもたせるために生活に関連づけた内容などの工夫する。  
 (3) 生徒の防災・減災意識を高揚させる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 基礎的・基本的な内容に関しては、身近な例について調べさせたり、考えさせたりすることで定着率を高める。  
 (2) 生徒が興味を抱くように授業の軸となる発問を研究する。生徒が自ら考え、表現し、自分の考えと仲間の考えを共有できる授業を工夫する。  
 (3) 過去や現在の災害について学び、日常または被災時にとるべき行動を考えさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
学習の内容が生活に生かされている場面を生徒に考えさせたり、調べさせることができた。また確認テストを平常時や考査前に実施したりして、基本的知識の定着をはかった。	B
本時の目標の達成のために、生徒が考え、それを仲間に広め、共有する場面の設定を心掛けた。また、演習では学びあい、教えあいの場面を通じて、理解を深めることができた。	B
自然災害発生のメカニズムを学び、被災したときにどのように行動すべきかを考えさせることができた。また、身近なところでの熊の出没への対応やその原因についても考えさせることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

理科を不得意とする生徒に対して、学ぶ意欲を維持させられるような発問や取り組みを検討していきたい。

## 5 その他、要望等

不要な薬品の処分を行って欲しい。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健体育 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的事項の徹底を図り、健康で安全な生活に留意させる。  
 (2) 生涯にわたって運動に親しむ姿勢を定着させ、健康で安全な生活を送ることができる技能と知識を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 集団行動などを通して、周囲を考慮しながら行動し、しっかりとした態度を身に付ける。  
 (2) 基礎的、基本的な運動能力の更なる向上を目指し、反復練習に励む。  
 (3) ゲームなどでの確かなアドバイスや指示ができるようにルールなども把握する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
全クラスに集団行動を実施したが、集団行動の意義や重要性を指導することは出来たが、各クラスの発表をすところまで出来なかった。 挨拶後の準備運動はしっかり徹底できて、怪我防止に努めることが出来た。	B
個々の運動能力には大きな差があるが、能力別にグループ分けをしたり、動画撮影やクラスルームを使うなど、ICTを利用することが出来た。球技などでは飽きさせず、楽しくやれる工夫など、的確なアドバイスをすることが出来た。しかし、年間途中で担当教員が変わるなど指導が徹底できず、生徒に迷惑をかけてしまったことが残念である。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

学校行事に合わせた指導計画を徹底したため、導入に時間を割くことが出来なかった。  
 新体力テストを実施したが、どの種目とも秋田県平均に届くことが出来ず、体づくり運動や体力向上の補強トレーニングを多く取り入れたい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 芸術科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な音楽の諸能力を養う。  
 (2) 主体的に学習に取り組もうとする態度を育成し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 歌唱・器楽・鑑賞の諸活動の中で様々な種類の楽譜を読み取り、演奏実践を通じて読譜力を向上させる。  
 (2) 各自の興味関心に応じて課題を選択させるなど、ICTを活用した学習を効果的に取り入れ、効果的な教材の与え方を工夫するとともに、芸術・文化が日常生活に繋がっていることを理解できるように他分野と関連付けた授業の展開を工夫する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
・昨年度に引き続きYouTube動画を利用した器楽演奏の実践に取り組み、画面上に示された楽譜を読み取り、旋律やリズムについて体感しながら理解を深めることができた。五線譜の読み取りは時間を十分に確保できなかったためか、個人差が大きい。読み取りだけでなく歌唱そのものに自信のない生徒がおり、歌唱表現が積極的にできない生徒への指導方法が今後の課題である。	B
・クロームブックを活用して演奏を録画し、振り返りを通して次の課題発見、技術向上に繋げることができた。また、音楽Ⅲで家庭科と連携し、授業で創作した絵本の読み聞かせの音楽をこども園で発表する場を設けることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・五線譜を用いた歌唱教材を用いて、授業冒頭に歌うことを習慣化する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 英語科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 新学習指導要領やCAN-DOリストを踏まえ、5領域（技能）の基礎の定着に向けたアクティブラーニングの実践を図る。
- (2) 外国語やその文化に対する興味や関心を伸ばすために、ALTのさらなる積極活用を図る。また、積極的に英語でコミュニケーションをする態度を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) シラバスやCAN-DOリストを活用しながら、生徒と職員による協働学習と生徒間同士の主体的、対話的学習を視野に入れて普段の授業を構成し、実践していく。
- (2) 英語を使わせるという意識に立ち、教材や諸活動の精選を図りながら授業を実践していく。また、ALTとのコミュニケーションをよく図り、よりよいT.T.の実践に努める。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 5領域（技能）の伸長を考え、対話的、実践的な学習活動を概ね行うことができた。また、必要に応じてICTを利用しながら、主体的に学びの実践につなげることができた。但し、CAN-DOリストをこまめに活用しながら、学習活動を計画的に進めていくという点では課題が残る。	B
(2) T.T.を通して、ALTを積極的に活用し、異文化だけではなく、片言でも英語を話してみよう、話してみたいという気持ちの醸成につなげることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・各種英語検定における合格状況の改善

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 家庭科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 自立した生活者として必要な基礎教養の定着を図る。
- (2) 協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする力を育む。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 自立した生活者として必要な知識や技能とは何かを生徒と共に考え確認し、計画的に学習を積み上げられるように工夫する。
- (2) 身近な生活に注目して、抱いた疑問を解決したり、生活文化を継承したりしていくために必要なことは何かを考え、仲間と共に学び合う機会や、家庭や地域で実践する機会を設定する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 自立した生活者として必要な知識や技能とは何かを、生徒と共に考え確認しながら学習活動を行うことはできた。しかし、考えていたよりも基礎教養を習得するために時間がかかり、計画的に学習を積み上げることは十分ではなかった。	B
(2) 身近な生活に注目して、抱いた疑問を解決したり、生活文化を継承したりしていくために必要なことは何かを考え、一人一人が問題解決的な学習に取り組むことができた。小さなテーマ学習を頻繁に取り入れ、自分の学びを仲間と共有したり、協力して学び合うことで、主体的に学び、家庭や地域で実践しようとする気持ちが高まってきている。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 生徒の実態を踏まえて、自立した生活者に必要な基礎教養のために学習内容の厳選と年間計画を工夫する。
- (2) 問題解決的な学習は学ぶ意欲を高め、生徒の実践的な力を高めているので継続して取り入れていきたい。家庭や地域での実践化に結びつけられるように授業内容を更に工夫したい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和5年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 情報科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動をとおして、情報に関する科学的な見方・考え方が
- (2) 情報と情報技術と適切かつ効果的に活用し、主体的に参画するための資質・能力を身に付ける。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 情報の収集と精選、活用等について、実習を通して身に付けさせる。
- (2) 情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度である「情報モラル」の様々な側面と情報化の影の部分に関する教材について、お互いの考えを共有できる場面を計画的に設定する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
タイピング練習については、年間をとおして毎時間練習を行わせ、継続して力量が向上するようにした。また、タイピングのテストやデータの蓄をも実施したことにより、目標をもって取り組む姿勢が見られ、年度当初よりも皆、確実に向上することができた。	A
情報に関するセキュリティやモラル等の重要な点について、Life is Teck!を効果的に活用し、課題に取り組ませた。 プログラミングについては、Life is Teck!でHPの作成について学び、さらにマイクロビットでの基本的なプログラミングを行い、マクイーンやフォロなどを活用し、様々な形でのプログラミングを皆熱心に取り組むことができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

情報については、1年生のみならず、2年間に渡って、じっくりと繰り返しながら継続して、情報モラルやセキュリティについて行う必要があるように思う。

次年度のプログラミングでは、プログラミングコンテストへの参加を踏まえた授業を計画したいと考えている。

プログラミングの学習したことを昨年度に続いて、地域の小学生親子に対して、プログラミング体験教室で先生役となり教えることを行うことで、地域貢献への意識の醸成と自信をもつことにつながるため、今後も継続していくことが望まれる。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 5 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 商業科 \_\_\_\_\_

## 1 本年度の重点目標

- (1) ビジネスの諸活動における基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。  
 (2) 主体的に課題解決に取り組み、経済社会で実践できる能力を養う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 机間指導や個に応じた指導の充実を図り、基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。  
 (2) 課題演習や資格取得、探究型学習を通して、主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 生徒の実態に合わせて学習内容を精選・工夫した。基礎的・基本的な内容を重視しながら、学習に取り組みさせることができた。GoogleMeetを活用し、板書の工夫を行った。	B
(2) 3年生の課題研究ではgoogleサイトを活用し、美郷町の紹介を仮想webページを作成し公開まではできなかったが、互いに評価し合い主体的な活動を行うことができた。資格取得にも力を入れることができたが、2年生は知識を身に付けることに偏ってしまったところがある。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・ 学力および学習意欲の低い生徒への対応
- ・ 新学習指導要領、新教育課程への対応
- ・ ビジネスコースの総合的な探究の時間との連携

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 5 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 福祉 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 福祉のこころ・思いやりのこころの確立  
 (2) 確かな専門性と知識や技術の習得、態度の育成  
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 福祉のこころ・思いやりのこころの確立  
 ① ボランティア活動をとおして地域との関わりを深める。  
 (2) 確かな専門性と知識や技術の習得、態度の育成。  
 ① 実技指導を繰り返し行うことによって、介護の専門的知識と技術を向上させる。  
 ② 授業ノート・課題プリント・実習記録等の提出を徹底させ、「書く力」と「伝える力」と自ら学ぶ力を育成する。  
 ③ コミュニケーションの基本である傾聴の大切さを理解させる。  
 ④ 感謝の気持ちを持つことを忘れずに、日常生活の基本的なマナーや正しい言葉遣いを徹底させる。  
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現  
 ① 補習を継続する。(平日、土曜日、長期休業)  
 ② 施設実習をとおして、福祉の現場との連携を強化し就職活動に結びつける。  
 ③ 新1年生に対して福祉科選択者が増える魅力的なガイダンスを実施する。  
 ④ 模擬試験の実施、添削指導を強化し、さらなる知識・技術の定着を図る。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) ①CSの協力により、学校の周囲の歩道に芝桜を植えるなど、コロナ禍以前のようなボランティア活動が実施できた。	A
(2) 書く力の弱い生徒達に対しては「実習記録」について下書きを指導し、その上で施設に提出することにより、指導の充実を図ることができた。	A
(3) ③1年生に対する福祉科ガイダンスを例年通りできる限り実施してきたが、福祉科を選択する生徒が増えなかった。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

・魅力的な福祉科ガイダンスの実施

## 5 その他、要望等

特になし。